

平成26年10月 9日
国土交通省中部地方整備局
木曽川下流河川事務所

自分で考え自分の命を守る「防災テキスト」について

伊勢湾台風55年事業の一環として、小学生向け「防災テキスト」を配布します。災害時でも自分で考えて命を守る行動ができる子どもを育てるために、昨年度より教育関係者のご意見を聴き作成しました。

「教科学習や防災学習に活用してもらい、子どもたちの防災意識の向上に役立ってたい。」桑名市教育委員会などからコメントを頂戴しています。

内容を充実していくため4市1町の小学校4年生向け（60校99学級）に配布して、活用頂きながら使用感や改良点などを把握します。

1. 配付先 海津市10校14学級、愛西市13校22学級、弥富市8校14学級、桑名市28校47学級、木曽岬町1校2学級
2. 構成 防災テキスト（児童用）、同（指導者用・用語集）の3冊

木曽川下流河川事務所Webサイト
バナーよりダウンロード可能です。



3. 同時配布 津島市政記者クラブ、桑名市政記者クラブ、大垣市政記者クラブ

問合せ先

511-0002 三重県桑名市大字福島465

国土交通省 中部地方整備局 木曽川下流河川事務所

事業対策官 尾畑 功

調査課長 村田 智孝

TEL 0594-24-5711

自分で考え自分の命を守る「防災テキスト」



■ 主な内容

わたしたちが住んでいる土地は、濃尾平野とよばれています。濃尾平野には木曾三川といわれる、3つの大きな川が流れています。木曾川・長良川・揖斐川です。濃尾平野はこの3つの川によってつくられました。そして、濃尾平野とそこに住む人たちは、なんども大雨や台風による洪水や高潮、地震などの自然災害にあってきました。この本は、濃尾平野や自然災害について学ぶとともに、そうした自然災害がおきたとき、どのようにしてわたしたちの命を守ることができるのかを考えてもらいたいと思ってつくりました。

基礎編と応用編の二段階で構成

基礎編では、自然災害をわかりやすく解説

- ①濃尾平野がどのようにして出来たか、木曾三川下流地域の成り立ちを知る
- ②風水害や土砂害、地震などの自然災害と、木曾三川下流地域との関係を知る
- ③様々な自然災害にどのように備えたらよいか。

応用編では、自然災害から身を守るための知識を解説

- ①濃尾平野の地形特性や気象特性、
- ②木曾三川の河川改修の歴史、スーパー伊勢湾台風による想定される高潮被害
- ③風水害や地震から身を守る



自分で考え自分の命を守る「防災テキスト」

■目次構成 全65ページ

濃尾平野と川のこと

- ・自然がおこす災害、どれだけ知っている?・・・1
- ・わたしたちが住む、濃尾平野はどうやってできた?・・・3
- ・川は生きている・・・・・・・・・・5

災害 洪水・高潮・地盤沈下・土砂災害

- ・堤防はこわれることもある・・・・・・・・9
- ・台風と高潮について考えよう・・・・・・・・11
- ・堤防をのりこえ、まちをおそった高潮・・・・13
- ・高潮と濃尾平野の地盤沈下・・・・・・・・15
- ・山でおきる土砂災害を考えよう・・・・・・・・17

災害 地震・津波

- ・日本で地震が多いわけは?・・・・・・・・19
- ・東日本大震災と阪神・淡路大震災・・・・21
- ・地震がおこす津波・・・・・・・・・・23
- ・濃尾地震について考えよう・・・・・・・・25

自然の災害に負けないために

- ・大雨にそなえる・・・・・・・・・・27
- ・土砂災害にそなえる・・・・・・・・・・31
- ・台風や洪水にそなえる・・・・・・・・・・33
- ・地震にそなえる・・・・・・・・・・35

もっと、防災博士になろう

- ・濃尾平野のことをもっと知ろう・・・・・・・・39
- ・濃尾平野と雨・・・・・・・・・・41
- ・洪水と木曾三川・・・・・・・・・・43
- ・洪水との戦い・・・・・・・・・・44
- ・川の利用・・・・・・・・・・49
- ・台風を知ろう・・・・・・・・・・51
- ・伊勢湾台風とスーパー伊勢湾台風・・・・53
- ・地震の被害のイロイロ・・・・・・・・・・55
- ・川や気象の防災情報・・・・・・・・・・57
- ・洪水から自分の命を守る・・・・・・・・61
- ・地震から自分の命を守る・・・・・・・・63
- ・災害はわすれたころにやって来る・・・・65

自分で考え自分の命を守る 「防災テキスト」

わたしたちが住んでいる土地は、濃尾平野とよばれています。濃尾平野には木曾三川といわれる、3つの大きな川が流れています。木曾川・長良川・揖斐川です。濃尾平野はこの3つの川によってつくられました。そして、濃尾平野とそこに住む人たちは、なんども大雨や台風による洪水や高潮、地震などの自然災害にあってきました。

この本は、濃尾平野や自然災害について学ぶとともに、そうした自然災害がおきたとき、どのようにしてわたしたちの命を守ることができるのかを考えてもらいたいと思ってつくりました。

児童用

自分で考え自分の命を守る
防災テキスト



木曾川下流河川事務所Webサイトより
ダウンロードできます。
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>

基礎編と応用編の二段階で
構成されています。

基礎編では…

自然災害をわかりやすく解説

- ①濃尾平野がどのようにして出来たか、木曾三川下流地域の成り立ちを知る
- ②風水害や土砂害、地震などの自然災害と、木曾三川下流地域との関係を知る
- ③様々な自然災害にどのように備えたらよいか。

応用編では…

自然災害から身を守るための知識を解説

- ①濃尾平野の地形特性や気象特性
- ②木曾三川の河川改修の歴史、スーパー伊勢湾台風による想定される高潮被害
- ③風水害や地震から身を守る

指導者用

自分で考え自分の命を守る
防災テキスト

指導者用



▼お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所

〒511-0002 三重県桑名市大字福島465 TEL.0594-24-5711



児童用
内容

写真やイラストを使い、内容をわかりやすく表現しています。



堤防はこわれることもある

昭和51年9月12日、長良川中流部の岐阜県安八町で長良川の堤防がこわれました。岐阜県安八町や大垣市墨俣町で約3500戸の家や田畑が浸水しました。



堤防がこわれたわけ

9月8日から12日までに長く降り続いた雨で、長良川の水は堤防をこえるような状態が長く続き、堤防は水の力にたえられなくなり、こわれました。

昭和51年安八豪雨災害時における水防団による堤防を守る仕事

右の図は、長良川の上流でこの5日間に降った量を表しています。多いところでは、1,000mm程度になっています。その雨の量はこの5日間で、1年に降る量の半分程度が降ったこととなります。

洪水から自分の命を守る
61・62ページを見よう！

堤防はどうやってこわれるの？

堤防は、土でできています。土は、水に洗われたり、水を多く含むれやすい性質があります。

堤防の一番高いところから水があふれるようになると、堤防がこわれるおそれがあります。

堤防の川側の斜面が水によってけずられると、堤防がこわれるおそれがあります。

堤防から水が浸透し、川の反対側の斜面から、にこった水がもれると、堤防がこわれるおそれがあります。

川の水や雨によって川側や川の反対側の斜面がくずれると堤防がこわれるおそれがあります。

どろだんごで実験しよう

どろだんごをつくり、水の量を増やしながら土の性質を確かめてみよう。

指導者用
内容

堤防はこわれることもある

昭和51年9月12日、長良川中流部の岐阜県安八町で長良川の堤防がこわれました。岐阜県安八町や大垣市墨俣町で約3500戸の家や田畑が浸水しました。



堤防がこわれたわけ

9月8日から12日までに長く降り続いた雨で、長良川の水は堤防をこえるような状態が長く続き、堤防は水の力にたえられなくなり、こわれました。

昭和51年安八豪雨災害時における水防団による堤防を守る仕事

右の図は、長良川の上流でこの5日間に降った量を表しています。多いところでは、1,000mm程度になっています。その雨の量はこの5日間で、1年に降る量の半分程度が降ったこととなります。

洪水から自分の命を守る
61・62ページを見よう！

堤防はこわれることもある

指導のねらい 私達の暮らしは堤防によって守られているが、想定を超える洪水で壊れることもあることを理解する。

昭和51年9月12日、長良川中流部の岐阜県安八町で長良川の堤防が壊れました。岐阜県安八町や大垣市墨俣町では堤防決壊によって約3,500戸の家や田畑が浸水、死者3名で大人によって約26,000戸が床上浸水被害を受けました。

学習のねらい

- ・堤防は土でできているので、土の性質を知る。
- ・その上で堤防はどのような形で壊れるのかを理解する。

児童用の内容

堤防はどうやってこわれるの？

堤防は、土でできています。土は、水に洗われたり、水を多く含んだり、水が浸透するとこわれやすい性質があります。

堤防の一番高いところから水があふれるようになると、堤防がこわれるおそれがあります。

堤防の川側の斜面が水によってけずられると、堤防がこわれるおそれがあります。

堤防から水が浸透し、川の反対側の斜面から、にこった水がもれると、堤防がこわれるおそれがあります。

川の水や雨によって川側や川の反対側の斜面がくずれると堤防がこわれるおそれがあります。

どろだんごで実験しよう

どろだんごをつくり、水の量を増やしながら土の性質を確かめてみよう。

自分で考え自分の命を守る
防災デキスト
指導者用



指導用の解説

堤防はどうやってこわれるの？

堤防は土でできています。土は水に洗われたり、水を多く含んだり、水が浸透するとこわれやすい性質があります。

- ① 溢水による堤防決壊： 前面を上回る（河堰を越える）河川水位により、堤防天端から水が溢れるようになると、堤防が壊れる恐れがあります。
- ② 洗掘による堤防決壊： 堤防の川側の斜面が、水に洗われやがたりによる浸食によって削られる。拡大すると堤防が壊れる恐れがあります。
- ③ 浸透による堤防決壊： 堤防は土でできており、増水が長時間継続すると、堤防から水が浸透し、川の反対側の斜面からにこった水がもれたり、堤防基礎から離水して堤防が壊れる恐れがあります。
- ④ 斜面崩壊（法崩れ）による堤防決壊： 大雨によって堤防の斜面がくずれ、拡大すると堤防が壊れる恐れがあります。

堤防決壊の多くは本流が堤防を越え水が溢れる溢水により、土が水に洗われて浸透することによるが、昭和51年の安八豪雨災害のように、多量の増水と長時間にわたる高水位のもとでの浸透が原因の決壊があります。浸透による堤防決壊を防ぐためには、早期の発見により水防活動によるシート工法、月の輸送などで対応します。

水防団が守る堤防

昭和51年9月8日から14日まで、延々137時間にも及ぶ大洪水の際には、岐阜県水防団でも延々4,500人が出動し、各地では数回にわたる水防活動によりその機能を維持してきましたが、ついに長良川中流で壊れました。

どろだんごで実験しよう（堤防が壊れるわけ）

どろだんごを作り、水の量が少ないもの、やや多いもの、多いもの3種類のどろだんごを用意し、土質が浸透により壊れることを体験する

児童用の内容を確認しながら
指導、解説できるよう
見開きで表示しています。